

業務報告

果樹班

果樹では、温州ミカン、伊予柑、甘夏柑、ネーブル、ポンカンおよび不知火の柑橘類と、モモとブドウの落葉果樹の栽培管理を行った。

1. 平成 27 年度の概要

今年の柑橘類は表年の影響もあり、発芽期、開花期ともに順調な生育となった。7月、8月と台風が接近したため、荒れた天気となった。秋のはじめは高気圧のため晴れの日が多かったが、その後偏西風の影響などで曇りや雨の日が増えた。冬は断続的に寒気が入り、多少荒れた天気となった。平均気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年より少なかった。気象による影響は強風で、ビニールハウスが壊れるなどの損害はあったが、果樹などへの影響はなかった。

温州ミカンなど柑橘類は全体的に収量が増えた。樹齢と減農薬化の影響などで、ポンカン、ネーブルなどの収量が減少した。落葉果樹は樹齢と実験の影響のため、モモの収量が減少した。

2. 作付け状況と収量（販売数量）

栽植樹種、栽植年次、作付面積、販売数量および前年比を第1表に示した。今年の柑橘類は、温州ミカンは昨年より23.9%増の販売数量であった。伊予柑、甘夏柑、ネーブルおよびポンカンの販売数量は昨年より減少した。不知火は、昨年より20.3%増となった。落葉果樹では、モモの販売量は減少したが、シャイン・マスカットの生産が安定してきたこともあり、ブドウの販売数量は昨年より増えた。

第1表 栽植状況と収量（販売数量）

栽植樹種	栽植年次	作付面積(a)	販売数量(kg)	前年比(%)	
早生温州ミカン	S.55.6	49.0	19,851	123.9	
晩生温州ミカン	S.57.3 H.8.3	36.0			
宮内伊予柑	S.56.3	46.0	4,657	103.9	
甘夏柑	S.56.3	14.0	3,493	95.0	
ネーブル	S.56.3	7.0	1,026	78.9	
ポンカン	H.5.3	10.0	236	49.4	
不知火	H.8.3	37.0	3,313	120.3	
その他の柑橘		17.5	700	143.1	レモン等
小計		216.5	33,276	113.9	
モモ	H.12.9	10.0	691	70.6	
ブドウ	S.61.3	7.5	1,901	110.0	
その他の落葉		48.5	241	49.3	キウイフルーツ等
小計		66.0	3,269	88.7	
合計		282.5	36,109	111.4	

3. 所要労力

果樹班は、昨年と同じ3名で栽培管理を行った。作業別労働時間を第2表に示した。全体の労働時間は4779.0時間であった。作業別労働時間の中では収穫・調整・出荷がもっとも多く、全体の37.7%となった。全体に占める割合は昨年よりも7.7%増えた。また、11月と12月には温州ミカンの収穫作業で、他班から応援を受けた。学生の職場体験学習やイベントなどでも収穫作業を行った。

第2表 作業別労働時間(平成27年4月～28年3月)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	%
整枝・剪定・接木	191.5	98.0	124.5	70.5	7.5	27.0	33.0	2.0		63.5	21.5	138.0	777.0	16.3
施肥		7.0	10.5			10.0	10.0			24.5	6.5	15.5	84.0	1.8
草刈り・草削り	17.5	67.5	44.0	38.0	35.0	36.0	45.0	12.5					295.5	6.2
摘粒・摘果・袋掛		62.5	59.5	101.5	146.0	34.5	81.0						485.0	10.1
農薬散布・管理	53.5	68.5	70.5	63.5	38.5	14.5	60.5	1.5		16.5	37.5	37.5	462.5	9.7
灌水・防風管理	1.0					1.0							2.0	0.0
収穫・調整・出荷	105.0	2.0	42.0	50.5	60.0	154.5	97.0	243.0	392.0	208.0	264.5	183.5	1802.0	37.7
農機具管理	5.0	10.0	9.0	2.5	3.0	3.5	9.5			3.0	1.0	5.0	51.5	1.1
設備管理				2.5	4.0	12.0	9.5	2.5	7.5	10.0	1.0	10.5	59.5	1.2
園地整備	3.5	12.5	19.5	44.0	3.5	2.0	34.5	19.5		20.5	13.0	3.0	175.5	3.7
調査・データ整理	4.5	2.5	5.5	0.5	9.0	8.5	1.5	47.5	1.0	22.0	1.5	6.5	110.5	2.3
研究・実習補助	4.5	5.0	27.5	7.0	19.0	69.5	26.0	62.5	10.5	7.5			239.0	5.0
共同作業													0.0	0.0
会議・その他	14.0	5.5	10.0	27.0	13.5	5.0	8.5	3.5	5.5	13.5	11.5	8.0	125.5	2.6
研修				6.0		6.5							12.5	0.3
他部からの応援						3.5		1.0	28.5	1.5			34.5	0.7
他部への応援	5.0	6.5	9.0	5.5	6.0	5.0	3.5	2.5	2.5	8.0	3.5	5.5	62.5	1.3
合計	405.0	347.5	431.5	419.0	345.0	393.0	419.5	398.0	447.5	398.5	361.5	413.0	4779.0	100.0

4. 今年度の課題

摘果、防除など基本的な作業を適期に確実に実施するため、果樹でも栽培管理の見直しを行い、作業の省力化を推し進めていく必要がある。特に、モモは木の樹齢と実験の影響のため改植の必要性がでてきた。28年度より実験園をモモ園に改植する予定である。当農場では環境に優しく、また食の安全のため、柑橘類の一部においてはエコえひめの認証をとり、化学肥料と化学農薬を使用しない栽培を行ってきた。その他においても、農薬の散布回数を通常の下分に抑えた。これからも、柑橘類においては農薬をできるだけ使わない栽培を続けたい。また、隔年結果を防ぐため樹幹上部摘果を行い、安定した管理を行いたい。同時に、有望柑橘類への品種更新も行っていきたい。